

問 教育は成績が全てではないが、改善策を実施することにより、県内トップクラスの成績が修められるよう、取り組んでいく。

問 閉鎖的な教育委員会の体制を改め、生徒の方向を向いた教育を実行してほしい。学方向上のため、テスト結果を公表する考えはあるか。

答 公表はしていないが、市内の学校順位を作成し、各校に配布している。

問 [その他の主な質問]
○JR行田駅駐輪場の有料化

市民生活

**コミセンの有料化
循環バスの
値上げは中止を
大久保 忠
(日本共産党)**

問 コミュニティセンターみずしろ・南河原、婦人ホームの有料化を計画しているが、みずしろは毎年4万5千人を超える人が集う施設となっている。来年10月からの有料化は中止すべきではないか。

答 特定の人が行政サービスを利用した場合、応分の負担をしてもらい公平性を確保す

る必要があると考えている。

問 無料であった施設を有料化することや中央公民館等の使用料を増額するなど受益と負担を理由に市民負担ありきの市政はやめるべきではないか。

答 統一的な基準を設定することにより受益者負担の適正化を図るもので、サービスを受ける人と受けない人との負担の公平性から必要である。

問 ●循環バスの値上げ

問 市内循環バスは交通弱者の移動手段の確保とJR行田駅や観光施設利用者の交通手段として6コースで運行しているが、利用の最も多い西循環、観光拠点、南大通り線を現在の100円から150円への値上げを計画している。さらなる市民負担となる値上げは中止すべきではないか。

答 有料化へ移行以来100円で据え置いてきたが、コースの新設、分割にともない経費が増加傾向にある。受益と負担の観点から運賃の引き上げをお願いしたい。

問 市が行ったアンケートは82%の方が100円と回答している。3路線はJR行田駅

に乗り入れていることから値上げは路線バス業者の強い意向ではないのか。

答 吹上駅からの吹上線は初乗りが180円だが循環バスは100円で目的地まで行く。その差をどうにかならないかという意見を聞いている。

問 ●子どもの命を第一に
いじめの相談があった際、常に子どもの命が一番大切という対応をすべきではないか。

答 常に安全に学校で生活できるように対応していきたい。

教育行政

**児童・生徒の
学力向上施策
加藤 誠一
(黎明21)**

問 平成28年度全国学力テストの結果が公表されたが、本市の状況はどうか。その結果を踏まえてどう取り組むか。

答 小6、中3の全科目で全国及び県の平均正答率を下回った。一方で、「学校生活が楽しい」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」等、学習状況調査では全国、県平均を上回っている。今回

の結果は児童・生徒個々の正答率の傾向を把握するほか、成績上位の自治体、学校の取り組みを校長会で紹介する等努めている。

問 成績上位の秋田県等では早寝早起き、朝食をしっかりと取ること、宿題を含めた家庭学習に秘訣があると言われているが、本市の取り組みは。

答 家庭学習の質の向上が学力の向上に結びつくことから「行田版家庭学習のすすめ」を見直すとともに、学力向上推進委員会策定の「行田版板書・ノート指導の手引き」をもとに指導の充実を図る。

問 ●高齢者認知症への取り組み
高速道路の逆走、信号無視や暴走など高齢者認知症が社会問題化しているが、本市の認知症高齢者の数、実態は。

答 日常生活自立度2A以上の認知症高齢者は2147名おり、1478名が在宅、残りの669名が特養ホーム等に入所している。

問 認知症対策は、正しい理解の普及啓発とともに、本人、家族に対する見守り等の生活支援の取り組み強化が重要だが、本市の取り組み施策は。

答 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう地域包括ケアシステムの構築を通じて認知症専門医による認知症相談会、市民の理解を深める認知症サポーター養成講座、本人、家族及び地域住民の交流の場である「認知症カフェ」の開催、徘徊者早期保護のための早期発見シールの配付、はつらつ教室等への認知症予防メニューの追加等を行っている。



認知症サポーター養成講座教材

財政

**平成29年度
予算編成について
小林 友明
(新政策研究会)**

問 当初予算の編成に当たっては、国や県の動向を注視し